

北インド・ヒマーチャル・プラデシュ州の木造建築に関する研究

～寺院・民家の類型と立地条件の関係性について～

西日本工業大学 水野研究室 大下隼人

1. 研究の目的と手法

インドの建築は石造のイメージが強いが、ヒマラヤ山脈の南麓のヒマーチャル・プラデシュ州には木造で建てられた寺院建築が多く建っている。

この地域の木造建築については、屋根形状に基づく寺院の類型の分類、寺院と民家の構法についての研究があるが、寺院類型の違いが何を意味するのかについて、また、寺院建築と一般の民家建築との関係についてはあまり触れていない。

そこで、本研究では、1. 各類型の寺院の地理的分布、2. 各類型の寺院の立地条件、3. 民家建築の形式と立地条件との関係について、明らかにすることを目的とする。

まず各類型の寺院の地理的分布を確認し、重要な地域について 2019 年 8 月 28 ~ 9 月 17 日に現地調査した。訪問して確認することのできなかった広域情報の補足調査として、Google map も利用した。

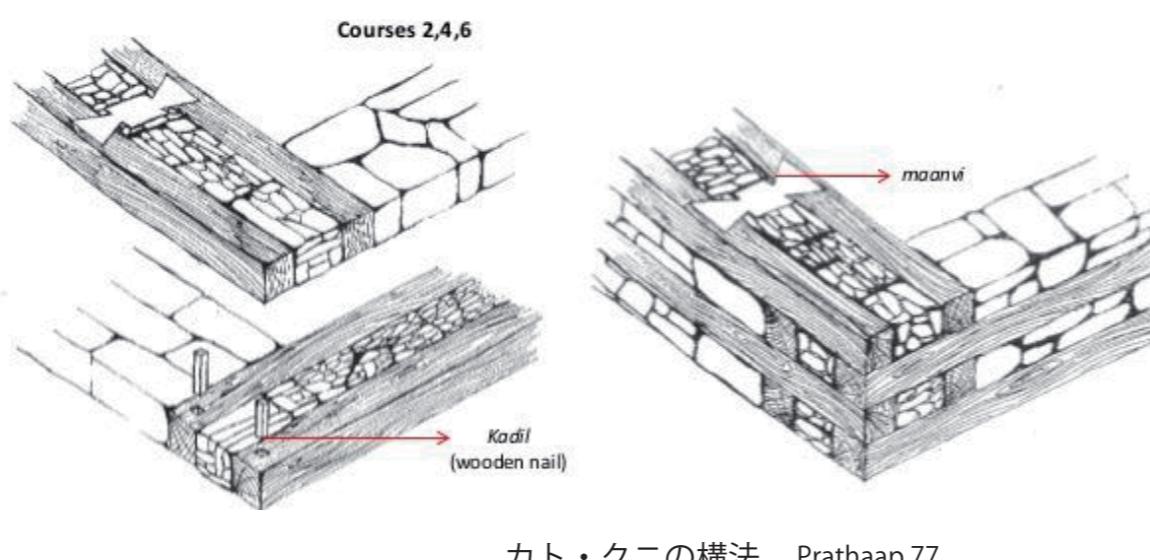
主な先行研究

Dave, Bharat and Thakkar, Jay and Shah, Mansi. Prathaap: Kath-khuni Architecture of Himachal Pradesh, Ahmedabad, India, 2013
Singh, Mian Goverdhan. "Temple Styles and Architecture", Wooden Temples of Himachal Pradesh. New Delhi, 1999

2. カト・クニの構法について

ヒマーチャル・プラデシュ州の木造建築の多くは、カト・クニ (kath-khuni) と呼ばれる構法を用いていることが知られている。木材を井桁状に重ね、その隙間を石で充填する手法で、壁面は白と茶色の縞模様になっている。

カト・クニの構法を用いた寺院や民家の屋根は、伝統的にはスレートを用いているものが多い。

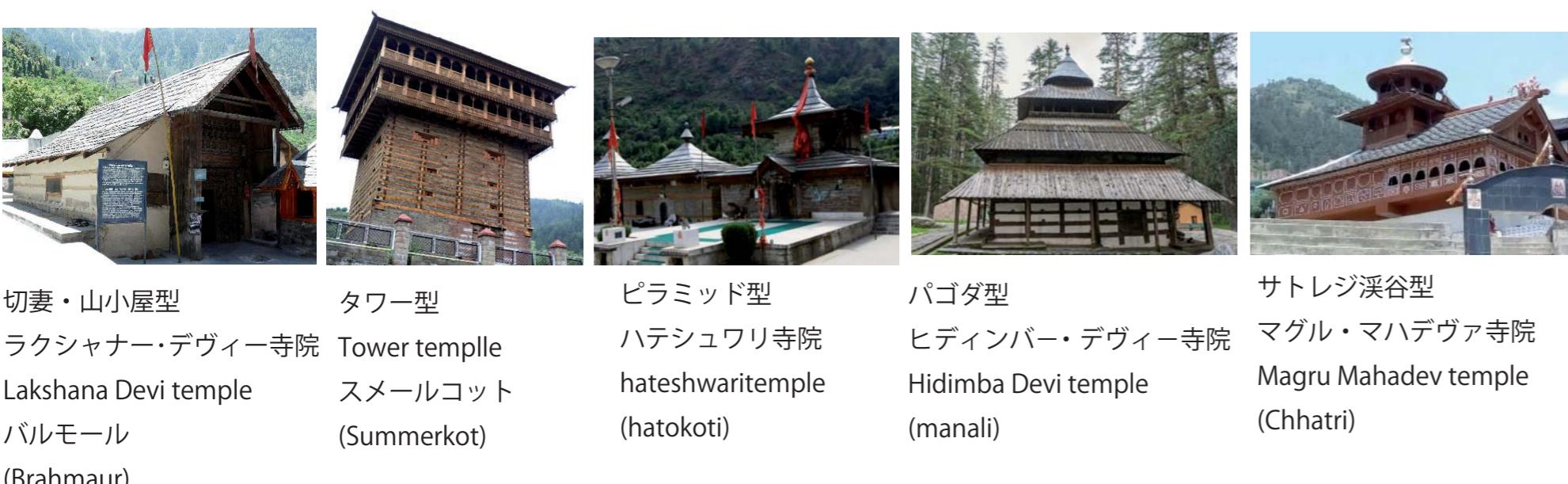


カト・クニ構法の寺院

3. 寺院の類型

先行研究*では、屋根の形から寺院を 5 つに分類している。

- 切妻・山小屋型：正方形あるいは長方形の平面のうえに切妻屋根が架かった形式
- タワー型：3 階以上のカト・クニ構法の壁を積み、上層階に木造のバルコニーを巡らせ、入母屋屋根を架けた形式
- ピラミッド型：正方形平面の上に、頂部に装飾のついた宝形屋根を架けた形式
- パゴダ型：日本の三重塔のように、四角錐を重ねた形式。最上部は円錐形になっているものもある
- サトレジ渓谷型：長方形平面に切妻型の屋根を架け、その一部にパゴダ型の屋根を重ねた形式



4. 各類型の寺院の地理的分布

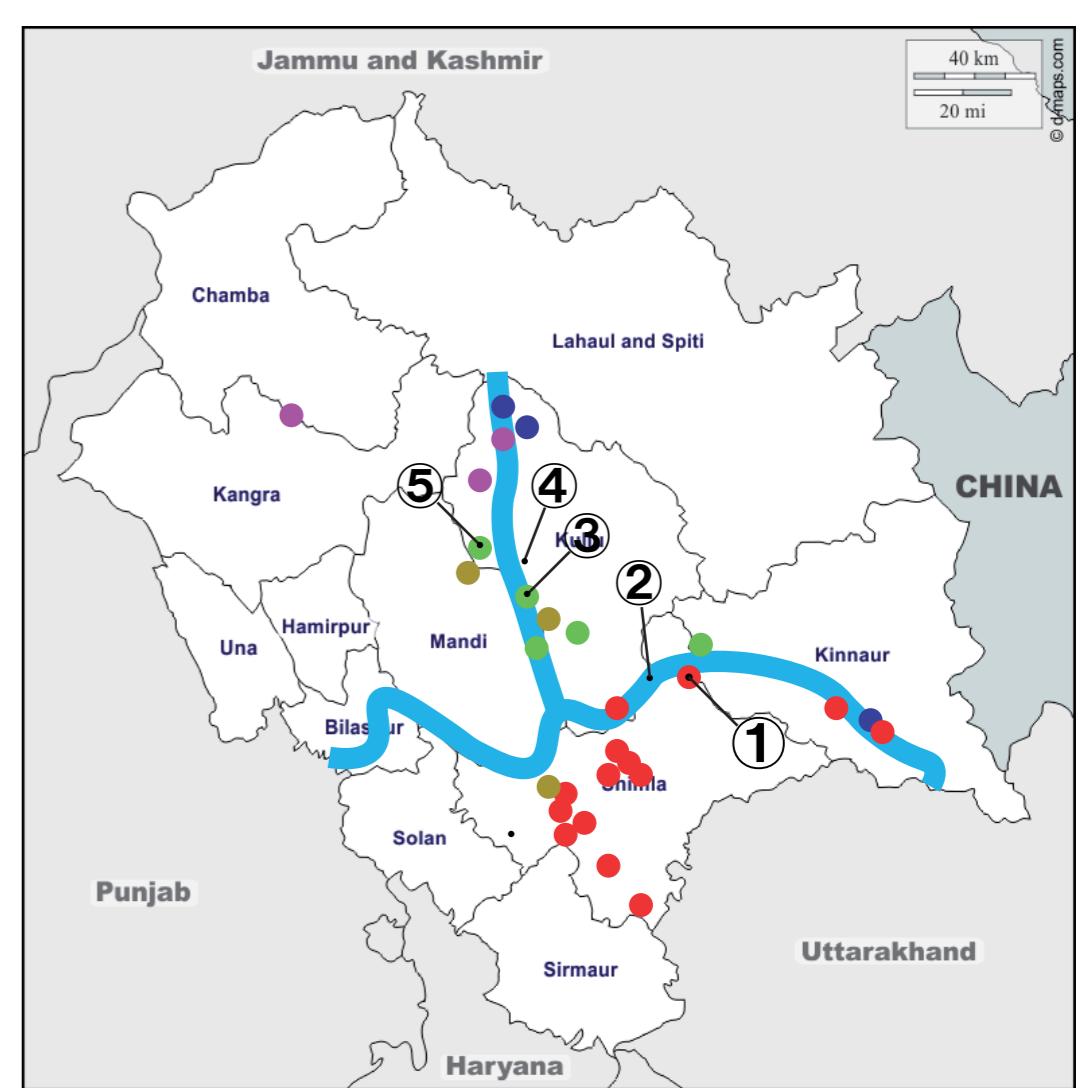
先行研究で名前が挙がっている寺院の位置を調べると、計 28 棟の位置が判明した。類型ごとに色分けし地図上でプロットしてみると、切妻・山小屋型は北部にしか見られないなど、地理的な偏りがある事が確認できた。

特にはっきりとした傾向が見られたのが、タワー型とパゴダ型である。

タワー型は、シムラー県の北境を流れるサトレジ川以南に集中している。一方、パゴダ型はクール県とマンディー圏の県境を流れるビアース川流域に集中していた。

この 2 つのエリアから計 5 か所の村を訪問して現地調査を行った。

- | | |
|-----------|------------|
| ● 切妻・山小屋型 | ① サラハン |
| ● タワー型 | ② ランプール |
| ● ピラミッド型 | ③ ナガール |
| ● パゴダ型 | ④ パーカ近郊の集落 |
| ● サトレジ渓谷型 | ⑤ マナリ |



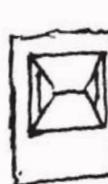
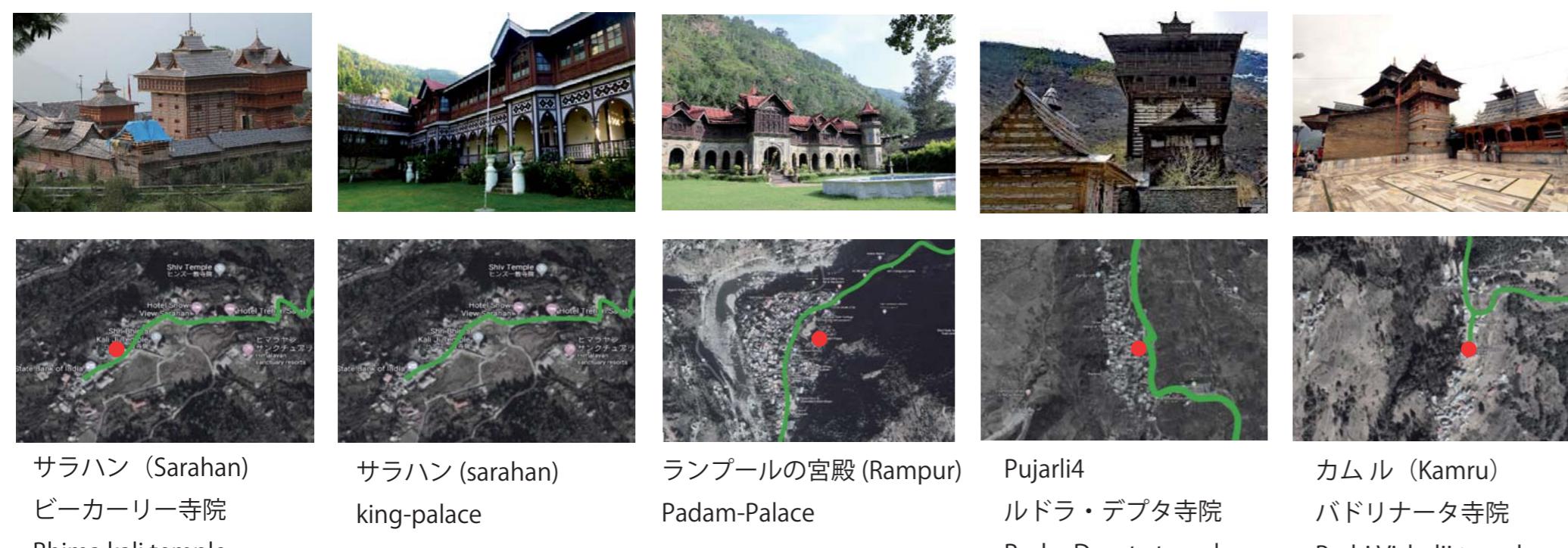
分布の傾向の図

5. 各類型の寺院の立地条件

タワー型寺院

元々城塞も兼ねていたサラハンのビーマ・カーリー寺院は、メインストリートの裏手の少し小高くなっている場所に立地している。寺院と宮殿の役割が分離した現在は、近くに宮殿が建てられている。この宮殿も、やはりメインストリートの裏手に位置している。ランプールの宮殿も、メインストリートから少し離れた小高い場所に立地している。

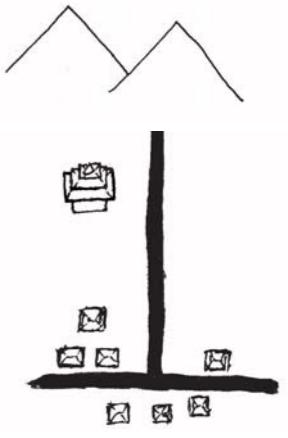
こうしてみると、ビーマ・カーリー寺院の立地は、宮殿との共通性が多いように見える。一方、Google Map で宮殿として用いられていないタワー型寺院を見ても、いずれも集落に隣接し、集落を見下ろす位置に位置する。



パゴダ型寺院

ナガールの寺院は集落の中心から 200m ほど離れた、山に向かう途中に位置する。マナリの寺院は集落から 1 キロほど離れた山の中に建っていた。Google map で見ると他のパゴダ型寺院も集落から離れた、山の中に続く道沿いにある。

寺院の類型は立地により異なっており、タワー型の寺院は山の斜面の集落を見下ろす位置に建っているのに対し、パゴダ型の寺院は、山へと続く道の途中に建っている。



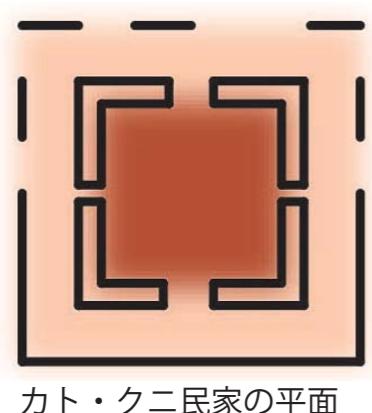
6. 民家建築の形式と立地条件との関係

カト・クニ構法の民家

パーカ近郊の村やナガール中心部、マナリの民家はカト・クニの構法やバルコニーが周囲を囲んでいる点などタワー型寺院と非常に似た形をしていた。



カト・クニの建築は開口部が小さく室内が暗いため、バルコニーを生活空間の一部にする必要があり、周囲に板を取り付けていると想えられる。



斜面地に建つ組積造の民家

一方、ナガール郊外にはカト・クニ構法を用いず、壁が組石造で、バルコニーが開放的な民家が見られた。

50 cm ほどの厚さの石の層と木材が交互に積み上げられていた。

斜面地に建っており、斜面のある西側と南側の 2 面にのみバルコニーがつき、接道側には付いていない。



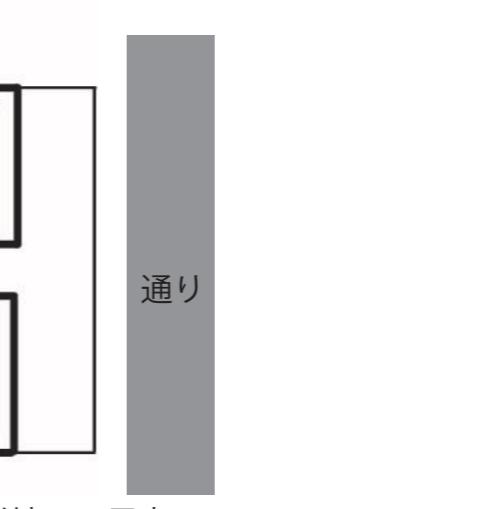
組積造の民家では開口部を大きく取れ、室内が明るいため、バルコニーを開放できる。組積造の場合、室内の明るさを確保するため、バルコニーはすべての面ではなく、必要な面にのみ付けている。

商業地区に建つ組積造の民家

組積造の民家はサラハンの道沿いにも見られた。

民家は町家のように連続して建っており、前後に屋内化されたバルコニーが見られた。

さらにバルコニーの下の下屋空間も塞がれ商店やレストランとして使われている。



7. まとめ

本研究で明らかにできたのは、以下の 3 点である。

寺院の類型には地理的な偏りがあり、州北部に切妻・山小屋型、中部のビアース川流域にパゴダ型、南部のサトレジ川流域にタワー型が集まっている。

寺院の類型は立地により異なっており、タワー型の寺院は山の斜面の集落を見下ろす位置に建っているのに対し、パゴダ型の寺院は、山へと続く道の途中に建っている。

カト・クニ構法の民家以外に組積造の民家もあり、ナガール郊外では斜面や南側に開放的なバルコニーをも付け、サラハンでは道沿いに町家のように連続し、下屋を屋内化するなど、その土地の条件に合わせた違いが見られた。